

2026年1月14日

株式会社ダイヤサービス

MCON TOKYO 2026 に出展 災害対応のドローン運航で求められる連携・判断 ・初動救護を支える講習プログラムを紹介

ドローン運航・コンサルティング・スクール事業を手掛ける株式会社ダイヤサービス（本社：千葉県千葉市花見川区、代表：戸出智祐）は、2026年2月7日に東京国際フォーラムで開催されるMCON TOKYO 2026に出展します。

MCON TOKYOは、自衛隊員や警察官、消防士、医療従事者など社会を支える人たちへの敬意と支援を掲げるイベントです。当社はこの趣旨に賛同し、災害対応を含む高負荷環境でドローン運航の安全と品質を継続して担保するために、操縦だけでは補いきれない判断と連携、そして不測の負傷への備えを、講習プログラムとして紹介します。

1. 出展の背景

災害対応の現場では、情報が揃わないまま判断を迫られ、タイムプレッシャーと疲労の中で複数の関係者が同時に動きます。この環境では、操縦技量だけで安全と品質を担保することが難しく、次の3つが結果を左右します。

- 判断の迷いを減らす共通言語
- 連携を崩さないコミュニケーション
- 気づきを次に残し、同じ失敗を繰り返さない仕組み

さらに、不測の負傷が起きた際に、救護や応急処置を適切に行える体制は、現場にいる全員に求められます。当社は、これらを現場で使える言葉と手順に落とし込んだ講習体系として提供しています。

2. 出展内容

当社ブースでは、次の三領域を軸に、実務ベースの講習内容と教材を紹介します。

1. CRM (Crew Resource Management) 講習

事故は偶然ではなく、複数の要因が重なって起きるという見立てから出発し、人がミスをする仕組みと、ミスを前提に現場を守るチーム連携を一日で学びます。

- 主な対象：現場クルー全員と、現場指揮に入る方

2. ドローン運航のための SMS (Safety Management System) 講習

個人や一部のキーマンの頑張りに依存せず、組織として安全を継続的に高めるための考え方と実装を扱います。SMSの四本柱を土台に、ヒューマンファクター、人間の特性十二か条、THE DIRTY DOZENなどの事故要因

の理解を踏まえ、リスク評価を通じて危険を“見える化”します。最終的には、自社で運用できる SMS 設計の叩き台を作るところまで踏み込み、現場で続く仕組みに落とし込みます。

- 主な対象：運航管理責任者、安全推進担当者、経営層

3. ドローン応急手当講習

ドローン運航現場に特化した応急手当を、実技中心で学ぶ講習です。

プロペラによる切創、転倒による骨折や打撲、バッテリー由来の熱傷など、ドローン現場で起こりやすい負傷を想定し、救護要請までの初動と応急処置を身につけます。

現場にいる誰もが最低限の対応を取ることのできる体制が、運航の信頼とチームの安心につながります。

- 主な対象：現場クルー全員と、現場指揮に入る方



CRM 講習基礎編テキスト



ドローン運航のための SMS 講習テキスト



ドローン応急手当講習テキスト



ドローン応急手当講習の様子



企画・販売中のドローン応急手当キット

3. 取材ポイント

新聞・オンライン媒体等の取材テーマとして、次の観点をご提案します。

(1) 災害対応のドローン運航で、操縦技量だけでは担保できない要素と、その標準化の考え方

当社要旨：判断基準、役割分担、ブリーフィングと振り返りを手順化し、誰が入っても再現できる運航にします

(2) 複数組織が同時に動く高負荷環境での連携不全を減らすための、共通言語とブリーフィング設計

当社要旨：現場の共通言語を揃え、短時間でも誤解が起きにくいブリーフィングの設計で連携を崩れにくくします

(3) ドローン現場で起こりやすい負傷の特徴と、初動救護を運航体制に組み込む理由

当社要旨：負傷を前提に初動救護の役割と手順を運航準備に組み込み、迷いと対応遅れを減らします

4. 代表コメント

当社はこれまで、平成 29 年 7 月九州北部豪雨、2018 年 1 月の草津白根山（本白根山）噴火、令和 6 年能登半島地震、令和 6 年 9 月 20 日からの大雨（令和 6 年奥能登豪雨）などで、出動または出動に向けたスタンバイの実績を重ねてきました。



災害対応で結果を分けるのは、操縦技量の話だけではありません。判断の基準を揃えること。連携のルールを決めておくこと。負傷事故が起きた瞬間に、誰が何をするかを迷わせないこと。平時に整えておいた準備が、そのまま現場の品質に直結します。

MCON TOKYO 2026 では、災害対応を見据えたドローン運航の CRM 講習、SMS 講習、応急手当講習を通じて、現場で機能する仕組みと教育の作り方を共有します。

5. 展示会概要

イベント名：MCON TOKYO 2026

日時：2026 年 2 月 7 日（土）10:00～17:00（予定）

会場：東京国際フォーラム ホール D7

主催：MCON TOKYO 実行委員会

公式情報：<https://mcon.live/MCON-tokyo>

6. 会社概要

所在地：千葉県千葉市花見川区朝日ヶ丘 5-27-28 畑町ビル 3 階

代表者：代表取締役 戸出智祐

設立：昭和 49 年 6 月 5 日

事業内容：ドローン運航事業、ドローンコンサルティング事業、

ドローンフィールド運営事業、ドローンスクール運営事業、

実証実験サポート事業



コーポレートサイト: <https://daiyaservice.com/>

ドローンスクール (DOSA 千葉校) : <https://dosa-chiba.jp/>

7. 本件に関する問い合わせ先

担当 : 広報担当 戸出智祐 (取材のご相談もこちら)

電話 : 043-310-3454 (広告掲載・売り込みのお電話は固くお断り申し上げます)

メール : info@daiyaservice.com

取材テーマ別の補足ポイント

(1) 操縦技量だけでは担保できない要素と標準化

- ・ 現場で判断が揺れやすいポイントを事前に洗い出し、判断基準を明文化します
- ・ 役割分担を曖昧にせず、誰が何を決めるか、誰が止める判断を持つかを明確にします
- ・ ブリーフィングと振り返りを運航の一部として位置づけ、学びを次に残す設計にします

(2) 連携不全を減らす共通言語とブリーフィング設計

- ・ 用語の解釈ズレが事故の引き金になるため、現場で使う言葉を揃えます
- ・ 状況共有の粒度を揃えるため、短時間でも要点が抜けない項目立てを用意します
- ・ 想定外が起きた時の報告経路と意思決定の流れを、事前に合意します

(3) 負傷の特徴と初動救護を運航体制に組み込む理由

- ・ ドローン現場で起こりやすい負傷を前提に、救護要請までの初動を設計します
- ・ 現場にいる誰もが最低限の対応を取れるよう、役割と手順を簡素に定義します
- ・ 応急手当は医療行為の代替ではなく、救急要請までの時間を安全に繋ぐ準備です